



国際環境協力分野において将来リーダー的役割を担う人を目指す 「海外派遣研修 ～マレーシア～」参加者募集

主催: 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 協力: 公益社団法人日本マレーシア協会



マレーシアで熱帯雨林の保全等を実体験し、世界で活躍できる人になろう

開発途上地域でのNGO・NPOの環境保全活動に興味がある方、ぜひご応募を!!

研修参加者のメリット

- 1. 熱帯雨林の保全現場等を実際に体験できます!**
マレーシアは、開発と自然保護の両立という課題を抱えた地域であり、様々な環境保全活動が行われています。本研修では、実際の活動現場を訪問し、その活動を自ら実施するという貴重な体験ができます。
- 2. 英語コミュニケーション能力が向上します!**
環境保全活動を実施している人々との意見交換や現地住民との共同作業を通じて、英語コミュニケーション能力が向上します。
- 3. 東・西マレーシアの文化の違いを体感できます!**
半島部の西マレーシアとボルネオ島の東マレーシアでは、民族構成や社会が異なるので、1国でありながら、2国を訪問する効果があります。

平成28年度「海外派遣研修 ～マレーシア～」

- 研修地: マレーシア
(クアラルンプール・ペナン・マタン湿地林・クチン・トンニボン村)
- 研修日程: 長期コース 平成28年8月20日(土)～9月8日(木) 20日間
短期コース 平成28年8月20日(土)～30日(火) 11日間
- 対象: これまでに民間環境活動団体(NGO/NPO)に携わるなど、環境保全活動の経験のある程度有し、開発途上国での活動(生物多様性保全、または循環型社会形成)に関心をもち、簡単な日常英語を理解できる18歳以上の健康な男女。*行政機関職員は対象外
- 募集: 長期研修: 6名 短期研修: 4名
- 参加費: 5万円(長期・短期両コース共通、現地食費等は別途自己負担)
- 注意事項: 事前研修(平成28年8月6日(土)、7日(日))と研修報告会(平成28年12月10日(土)※予定)への参加が必要です。
各会場は東京都内となります(交通費は別途支給します)。
- 応募: 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金のホームページに掲載している、「募集要項」をご一読の上、申込書類(申込書、経歴書、応募調査票)を作成し、下記申込先(公益社団法人日本マレーシア協会)に郵送でご応募ください。
*個人に関する情報は、本研修開催の目的以外には使用致しません。
http://www.erca.go.jp/jfge/training/international_index.html
- 締切: 平成28年6月30日(木)必着
- 審査: 申込書類をもとに趣旨に照らして審査、決定します。
- 決定: 7月14日(木)頃までに応募者へ通知します。

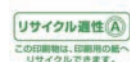
問合せ・郵送申込み先

公益社団法人日本マレーシア協会 (担当: 新井・森嶋・森林)
〒102-0093 東京都千代田区平河町1-1-1 北島ビル3F ■Tel: 03-3263-0048 ■Fax: 03-3263-0049 ■E-mail: taku-arai@jma-wawasan.com

主催



独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 (担当: 上村・永野・西岡)
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1-3-10 ミューザ川崎セントラルタワー8F
■Tel: 044-520-9505 ■Fax: 044-520-2190 ■E-mail: c-kikin@erca.go.jp ■URL: <http://www.erca.go.jp/jfge/>
*「地球環境基金」は国内外の民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動への資金の助成や人材育成、情報提供等の支援を行っています。



海外派遣研修日程表



日程	プログラム内容(予定)	宿泊地
短期 コース	1 8/20(土) 午前 成田発 夕刻 クアラルンプール着	クアラルンプール
	2 8/21(日) 終日 結団ミーティング(参加者同士の話し合い、グループ作業の確認 ほか)など	クアラルンプール
	3 8/22(月) 午前 在マレーシア日本大使館を訪問、講義と意見交換 午後 JICAマレーシア事務所を訪問、講義と意見交換 夕刻 ペナンへ移動	ペナン
	4 8/23(火) 午前 RCEペナンを訪問、講義と意見交換 午後 現地NGO(WWF、SAM)スタッフとディスカッションなど	ペナン
	5 8/24(水) 終日 RCEペナンスタッフによるESDワークショップに参加 (テーマ①有機農法、②リサイクル、③自然保護を予定)	ペナン
	6 8/25(木) 午前 現地NGO(PHT)を訪問、講義と意見交換 午後 ジョージタウン(世界文化遺産)保全活動現場の訪問など	ペナン
	7 8/26(金) 終日 スプラン・プライ市が地域社会と取り組むリサイクルとグリーン・ スクール活動現場訪問など	ペナン
	8 8/27(土) 終日 ペラ州タイピン地区マタン湿地林にてESDプログラムに参加 マングローブ林観察、住民からの聞き取り調査体験など	マタン湿地林
	9 8/28(日) 終日 マタン湿地林にてESDプログラムに参加 マングローブ林内の生物観察、苗木植林体験など	ペナン
	10 8/29(月) 午前 研修前半のまとめ 午後 RCEペナンにて研修生による発表と意見交換会 夕刻 短期コース研修生ペナン発	ペナン
	11 8/30(火) 早朝 短期コース研修生成田着、解散 午前 ペナンからサラワク州クチンへ移動 午後 サラワク州森林局を訪問、講義と意見交換 森林博物館を見学など	クチン
長期 コース	12 8/31(水) 午前 クチン市内見学(マレーシア独立記念日式典など) 午後 日本のNGOが行う環境保全活動に関する説明と意見交換など	クチン
	13 9/ 1(木) 午前 スリアン地区にある小学校訪問 午後 アペン保護林の熱帯雨林再生活動地域を訪問 自然保護区でオランウータンと80年前の植林地を観察	クチン
	14 9/ 2(金) 終日 スリアン地区のトン・ニボン村を訪問、コショウの収穫、乾燥作 業、伝統的なトウ細工づくり体験、村人との対話など	トン・ニボン村
	15 9/ 3(土) 終日 アペン保護林にて「アペン森の学校」プログラムに参加 地域の中高生、大学生、村人らと植林作業体験など	クチン
	16 9/ 4(日) 終日 マタン野生生物保護センターにてオランウータンの保護とリハ ビリ活動について学習、檻掃除、餌・巣づくり作業体験など	クチン
	17 9/ 5(月) 午前 青年海外協力隊員(JOCV)の活動現場訪問 研修のまとめ	クチン
	18 9/ 6(火) 終日 発表資料の作成と意見交換など	クチン
	19 9/ 7(水) 午前 マレーシア・サラワク大学で研修生による発表と意見交換 午後 全体の反省会、修了式 夕刻 クチン発	機中
	20 9/ 8(木) 早朝 成田着、解散	

《 協力団体・訪問先(予定) 》

研修期間中、主に以下の団体等の協力を得て、地域における異なるセクター(各種教育機関、NGO・住民組織、企業、行政機関等)が協同し、海外とのネットワークも構築し、国際環境協力を推進することの重要性と、そのための人材育成の必要性について学ぶ。

●日本政府機関

在マレーシア日本大使館とJICAマレーシア事務所にて、最新マレーシア事情、日本とマレーシアの外交関係、日本の環境保全等での協力、政府開発援助(ODA)の概要と現状などを学ぶ。

●マレーシア行政機関

ペナン州スプラン・プライ市、ペラ州森林局、サラワク州森林局、マタン野生生物保護センター(サラワク州)の協力を得て、地方行政における環境保全への取り組み、熱帯雨林の現状と保全面での課題、地域社会との協働によるリサイクルやごみ問題への取り組みなどを学ぶ。

●大学

ペナン州ではマレーシア理科大学(USM)の教員・学生とESDワークショップに参加、サラワク州ではマレーシア・サラワク大学(UNIMAS)の教員・学生と熱帯雨林再生活動をも行い、意見交換をすることで、相互交流とお互いの経験共有を図る。

●学校

サラワク州スリアン地区の小学校が日本のNGOと協働し行う熱帯雨林再生のための苗木育成活動現場を視察するほか、児童との触れ合いを通じて、異文化体験を行う。

●NGO

WWFマレーシア・ペナン支部スタッフより、開発途上地域で活動する国際NGOを学ぶ。マレーシア地球の友(SAM)とペナン・ヘリテージ・トラスト(PHT)より、海外におけるNGO活動の現状と課題などについて学び、意見交換を行う。

●地域住民組織

サラワク州スリアン地区のトン・ニボン村にホームステイし、農産物収穫や工芸品作成体験を行う。また、住民自治組織との対話を通じて、自然保護と開発現場の最前線にいる地域村落の現状を知り、住民意識を尊重しながら国際環境協力を行うことの大切さを学ぶ。

●海外で活動する日本のNGO

(公社)日本マレーシア協会がサラワク州で行う熱帯雨林再生活動を通じて、永年、地域に根ざした活動をしている日本のNGO活動事例に触れるとともに、海外でのプロジェクトチーム形成に向けた取り組みを学ぶ。

●RCEペナン

RCEペナンは、マレーシアで初めて指定を受けたRCEで、マレーシア理科大学(USM)に拠点を置く。ペナン地区をフィールドに、ペナン州の島内、半島側、隣接するペラ州の湿地林地区において、各種講義や体験型プログラムなどを実施する。

ESD: 国連が推奨する「持続可能な発展のための教育(Education for Sustainable Development)」

RCE: 国連が指定する「ESDのための地域拠点(Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development)」

- * 毎日のプログラム終了後、振り返りや意見交換の時間を設けます。
- * 研修地の政情、受入団体の事情などにより、行程や内容を変更する場合があります。
- * 最終的な成果として、研修報告書の提出と研修発表があります。